

技術指導の具体例について

- 【与薬の技術】

 - 経口薬の与薬

 - 筋肉・皮下注射

 - 点滴静脈注射

 - 輸液ポンプ・シリンジポンプを使用した与薬

- 【活動・休息援助技術】

 - 車椅子による移送

技術指導例

●与薬の技術

～経口薬の与薬～

【到達目標】

内服薬与薬（経口）についての基本を習得し、安全・正確に与薬が実施できる

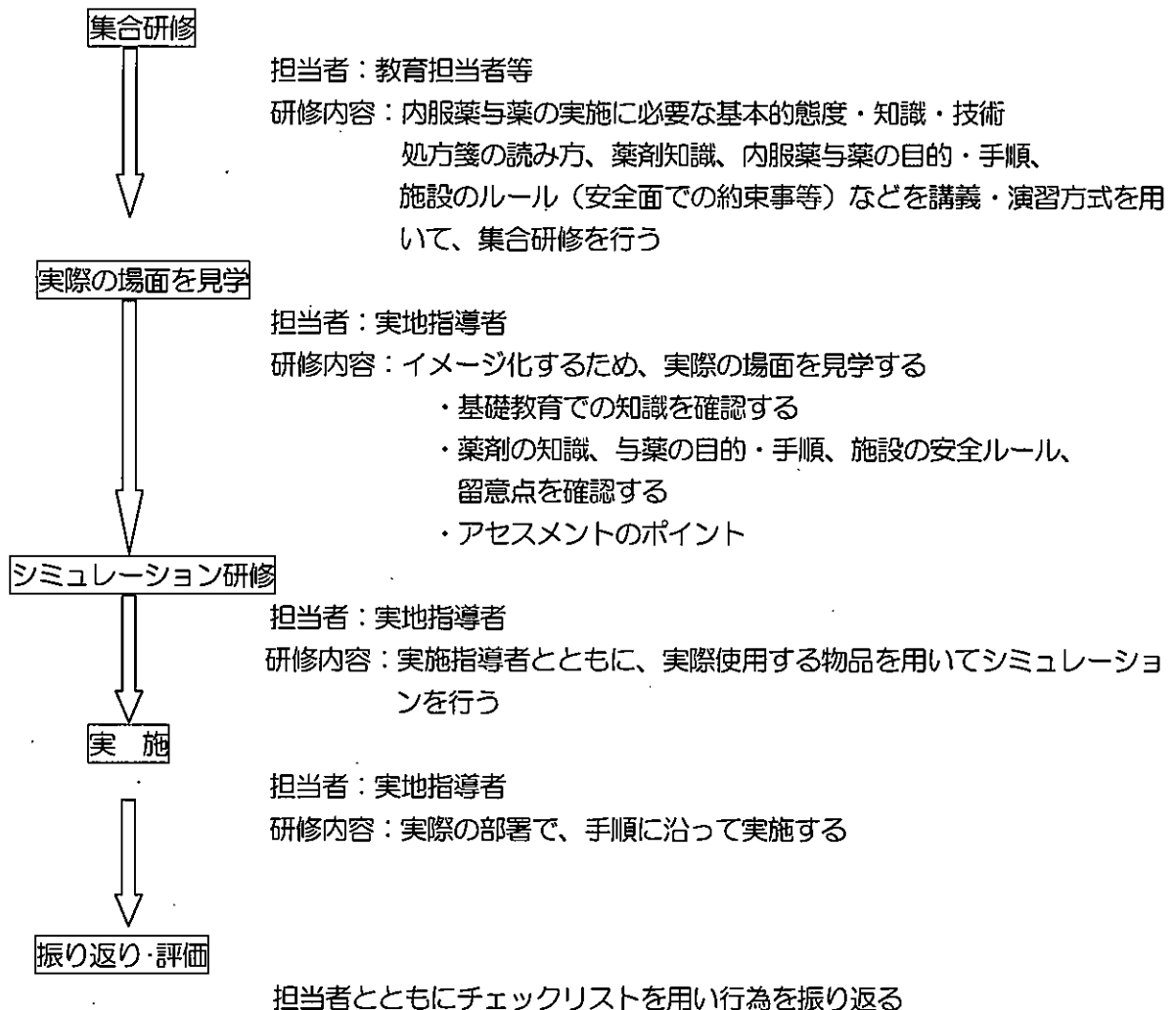
【到達までの期間】

1ヶ月～2ヶ月

【看護技術を支える要素】

- ・ 正しい薬剤知識がある
- ・ 患者確認を、医師の指示書等をもとに実施できる
- ・ 曖昧な点は医師や指導者に確認できる
- ・ 患者、家族へわかりやすい言葉で説明ができる
- ・ 患者の状況をアセスメントできる
- ・ 状況に応じた、与薬後の観察ができる

【研修方法】



| | |
|--|---|
| <p>③ 患者氏名の確認 フルネームで名乗ってもらい、または患者識別バンド等での確認</p> <p>④ 患者への説明および同意を得る</p> <p>⑤ (可能な場合) 患者と共に薬剤・氏名を確認</p> <p>⑥ 誤嚥防止のための体位(前屈座位が望ましい)を援助する</p> <p>⑦ 内服薬を与薬する 確実に服用されたか、確認する</p> <p>⑧ 内服後の観察(特に呼吸状態)</p> <p>⑨ 使用した物品を片付け、患者の体位、周囲の環境を整える</p> <p>⑩ 患者への挨拶・言葉がけをして退室</p> <p>⑪ 必要に応じ、バイタルサインなど、与薬後の患者状態を観察する</p> <p>3. 後片付け、実施記録</p> <p>① 使用した物品類を定位置へ戻し、手洗いをを行う</p> <p>② 内服薬与薬の実施記録(押印、サインなど含む)をする</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・患者誤認の防止ができる(フルネームでの確認を習慣づける) ・一方的でない、ゆっくりとわかりやすい説明ができる ・患者参画を促すことができる ・誤嚥防止のため、適切な体位への援助ができる 必要時、安楽枕やクッションを利用する ライン類が留置されている場合は、引っ張らないように特に注意する ・内服後の誤嚥防止に注意できる ・安全に配慮した環境調整ができる <p>・与薬後の観察が必要な薬剤・患者状態の把握ができる</p> <p>3. 後片付け、実施記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施記録を確認する ・一連の看護行為の振り返りを一緒に行い、プラスのフィードバックとなるように、チェックリストに沿って、出来たところと次回の目標を確認する |
|--|---|

内服薬与薬チェックリスト

氏名 ()

○一人でできる △助言があればできる ×不十分（再度指導・確認を要する）

目標到達期間 □1ヶ月 ■2ヶ月

| 確認項目 | 実施 月日 | 自己 評価 | 他者 評価 |
|--|----------|----------|----------|
| ①内服薬与薬について、基本的知識・技術（薬剤の作用副作用、目的、与薬時の注意点など）、安全面のルールを述べることができる | | | |
| ②指示書に書かれてある内容が理解でき、説明できる | | | |
| ③内服薬の薬理作用を述べ、当該患者に投与する理由を述べるができる | | | |
| ④必要物品が準備できる | | | |
| ⑤患者への挨拶、言葉かけができる | | | |
| ⑥患者氏名の確認をフルネームで行うことができる | | | |
| ⑦患者状態の観察、アセスメントができる | | | |
| ⑧患者へわかりやすい説明を行い、同意が得られる（質問時、答えることができる） | | | |
| ⑨与薬時、適切な体位が援助できる | | | |
| ⑩与薬行為を安全・正確に行うことができる | | | |
| ⑪内服後の患者状態を観察できる（特に呼吸状態） | | | |
| ⑫周囲の環境を整備し、患者へ挨拶をしてから退室できる | | | |
| ⑬必要時、実施内容を指導者等に報告できる | | | |
| ⑭必要時、看護記録に記載できる | | | |
| コメント（今後へのアドバイスなど） | | | |